

徳島県治山林道協会

# 治山林道協会報

## 新年のあいさつ

徳島県治山林道協会会長 山口 俊 一



平成二十九年「酉年」の新春を迎え、謹んで新年のご挨拶を申し上げます。

会員の皆様には、ご壮健で新しい年をお迎えのことと心からお慶び申し上げます。また、日頃は、治山林道事業の推進に格別のご支援、ご協力をいただき厚くお礼を申し上げます。

昨年は、全世界において予想もしない出来事が多い年でありました。各国でのテロ事件や難民問題、経済的には、英国でのEU離脱を問う国民投票、また、アメリカ大統領選での結果は世間の前評判を覆すこととなり、青天の霹靂と言っても過言でないものとなりました。それぞれの事象が及ぼす国内への影響も大いに懸念されるところです。

また、日本に目を移しますと、TPP法、地球温暖化対策、北方領土、尖閣列島問題等、さらに経済的には年金法制度改正、消費税延期、為替の変動、マイナス金利等による景気動向に未だ多くの懸案が山積しております。現在の国内経済は、金融緩和策により外需依存型企業の成長が進み、企業の設備投資も大手を中心に上向き傾向にあるといわれております。しかし、地方の中小企業、個人の消費は未だその実感が感じられないものとなっており、今後は更に「地方創生」に向けた施策を進めていかねばならないと考えております。

この様に課題の多い中、明るいニュースとしては、昨年に続き今年もノーベル医学・生理学において日本の研究者が受賞されたこと、また当初盛り上がりなかつたりオ・オリンピック・パラリンピックにおいて多くの若い選手が輝かしい成績を収め二〇二〇年の東京オリンピック

開催に向けて弾みがつきました。今後のインフラ整備等のコストパフォーマンスに課題は残っていますがその取り組みに大いに期待したいところです。

一方今年も日本列島を多くの自然災害が猛威を振るいました。東北、北海道への予期せぬ大型台風襲来、また九州地方、熊本・大分県の活断層帯地震による大災害、同じく鳥取県西部の活断層帯地震により多くの人々が被災されました。この様に最近の地震発生の様子から研究者の間では既に南海トラフ巨大地震のカウントダウンが始まっていると言われております。したがって事前防災対策は必要不可欠な事案であり、スピード感をもって取り組まねばならない大きな課題となっております。

このため国・県の取り組み林野事業におきましても、昨今の多発する豪雨による甚大な山地災害の状況を見据え、またこれから起こるであろう巨大地震に備える事前防災・減災対策として、そして林業成長産業化を図る上において更なる予算確保に務めてきたところです。その結果、平成二十九年度林野予算につきましては、対前年度比一〇・八%、公共事業費で一九〇〇億円、非公共事業費では一〇五六億円となりました。これらをもって適正な施策への活用を進めて行きたいと思っております。

これからも予算の確保、事業の推進にあたりましては、当協会の会長として、また、「(社)日本治山治水協会・日本林道協会」、さらに「森林整備・治山事業促進議員連盟」の会長として治山林道事業の重要性を訴え、これまで以上に治山林道事業の推進に精一杯努力して参ります。

今後とも、なお一層のご支援、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。これからの会員皆様のさらなる活躍、ご健勝を心よりお祈り申し上げます。新年のあいさつとさせていただきます。

この様に課題の多い中、明るいニュースとしては、昨年に続き今年もノーベル医学・生理学において日本の研究者が受賞されたこと、また当初盛り上がりなかつたりオ・オリンピック・パラリンピックにおいて多くの若い選手が輝かしい成績を収め二〇二〇年の東京オリンピック

● 新年のご挨拶	徳島県知事 飯泉嘉門 … 1	● 平成28年度発生治山林道災害について … 6
● 新年のご挨拶	徳島県農林水産部長 松本雅夫 … 2	● 平成28年度全国森林土木写真コンクール … 7
● 年男の抱負	… 3	● 平成28年度山地災害防止標語コンクール … 7
● 平成28年度日本林道協会通常総会治山・林道コンクール表彰式	… 4	● 本協会の主な動向(11月~12月) … 7
● 治山林道技術研修会開催	… 5	● 備忘録 … 7

目次  
CONTENTS

# 新年のご挨拶

徳島県知事 飯 泉 嘉 門



明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、輝かしい新年を健やかに迎えたいと、心からお慶び申し上げます。

昨年は、「女性活躍推進法」の全面施行など「働き方改革」が叫ばれ、「第四次産業革命」として、IOT（モノのインターネット）や人工知能など情報技術が大きく進展する一方、英国のEU離脱や米国の大統領選など価値観の大変革の予兆を感じた一年となりました。

また、「地方創生・本格展開の年」でもあり、徳島発の新しい働き方「サテライトオフィス」は、東京などからの県内進出企業数が過去最多。さらに、合計特殊出生率が一・五三、伸び幅は全国平均〇・〇三の二倍以上〇・〇七となる中、子育ての負担が増す「小一の壁」を打破すべく、第三子以降の「放課後児童クラブ利用料」を無料化、全国初、全県下で展開中の「ファミリーサポートセンター」は、一部で病児・病後児預かりサービスを開始、出逢いの場を創出する公的結婚支援の拠点「マリッサとくしま」も開設致しました。

一方、昭和南海地震から七十年、東日本大震災から五年の「防災メモリアルイヤー」として啓発活動を強化する中、熊本県、鳥取県中部、福島県沖と相次いで大きな地震が発生しました。県では、積極的かつ迅速な支援活動を展開し、特に、全国初の隔遠地協定を結ぶ鳥取県へは、

熊本地震の教訓を活かし、発災後三十分で支援第一陣が出発、その後も消防や保健師に加え、応急危険度判定士や住家被害認定調査員を派遣するなど、市町村や関係団体とも連携し全面的支援を行いました。

また、世界の平均気温が、過去最高を更新し続ける中、「今世紀後半に温室効果ガス実質排出量ゼロ」との歴史的合意「パリ協定」が発効しました。県では、「川口ダム自然エネルギーミュージアム」のオープン、水素ステーションと燃料電池自動車の導入など究極のクリーンエネルギー「水素」への対応、全国初の「脱炭素社会条例」の制定など、「自然エネルギー協議会・会長県」として、地球温暖化対策を積極的にリード致しました。

さらに、CO<sub>2</sub>吸収源となる森林・林業では、平成三十六年度までに、県産材生産量をプロジェクト開始前の約四倍となる「六十万㎡」にまで引き上げるとの目標を掲げた「新次元林業プロジェクト」に基づき、生産性向上に必要な高性能林業機械の大型化や搬出量増加に対応する林道などの林内路網整備を積極的に推進致しました。

さて、今年の干支は「丁酉（ひのと・とり）」。「丁」は、「新旧の衝突」を表し、「酉」は「酒」に通じ、麴が発酵するよう、内に醸された新勢力が発現することを意味します。そこで、丁酉の年は、「未来を左右する新しい考え方や動きが

台頭し、歴史の特異点となる」とされま

す。本年は、ランナー目線で、さらなる進化を遂げる記念すべき「第十回とくしまマラソン」が春を彩り、ドイツ・ニーダーザクセン州との友好交流提携も十周年を迎え、「奇跡の収容所」板東俘虜収容所関係資料のユネスコ「世界の記憶」登録への挑戦など一層の関係深化に取り組みます。

また、全国に先駆け、津波浸水を受けない高台移転を進める海部病院は、平時、災害時をシームレスに繋ぐ「先端災害医療拠点」として開院、日本の統治機構改革の突破口「消費者庁等の徳島移転」では、「消費者行政新未来創造オフィス」がいよいよ県庁舎で開設となります。

さらに、県土面積の七十六%を占め県土強靱化に不可欠な「森林の整備・保全」では、間伐等による計画的な森林整備をはじめ、集中豪雨等による土砂災害から生命・財産を守る治山施設や地すべり防止施設、大規模災害時に緊急輸送道路を補完する農林道の整備を積極的に促進して参ります。

大激動を暗示する丁酉の平成二十九年、「ピンチをチャンスに」変えてきた徳島から、「一歩先の未来」を先取りし、「一億総活躍」と「日本創成」をリードできるよう、「現場主義・県民目線」で、今年も挑戦し続けますので、一層のご理解、ご協力を宜しくお願い申し上げます。

# 新年のご挨拶



徳島県農林水産部長 松本雅夫

新年明けましておめでとございます。徳島県治山林道協会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

皆様には、日ごろから治山林道事業はもとより、本県の農林水産行政全般にわたりました、御理解と御協力を賜っておりますことに厚くお礼申し上げます。

昨年は、熊本、鳥取と相次いだ大規模な活断層地震における様々な被災地支援を通じ、直下型の強い揺れへの備えや、大規模災害時の応援・受援体制の重要性を、再認識したところであります。

本県においても、鳴門市から三好市にかけて「中央構造線・活断層帯」が縦断していることから、「活断層地震」や、切迫する「南海トラフ巨大地震」を迎えつつべく、「震災に強い社会づくり条例」を制定致しております。この条例に基づき、都道府県レベルで初の土地利用規制として、「特定活断層・調査区域」を指定し、活断層地震の被害回避に向け、取り組んで参りました。

これらに加え、昨年十月三十一日に、学識経験者で構成する「中央構造線・活断層・被害想定・検討委員会」を発足致し、年度内には「震度分布図」を、来年八月末までには「被害想定」を策定・公表することとし、これを基に、活断層地震に備える防災・減災対策の一層の充実・強化に、しっかりと取り組んで参ります。さらに、全国でトップを切つて「国土

強靱化・地域計画」を策定し、国と一体となつて治山施設等を整備し、近年大型化する台風や激化するゲリラ豪雨による大規模な水害、土砂災害をはじめ、突発的な豪雪による災害など、あらゆる自然災害に対し、致命的な被害を負わない強さと速やかに回復するしなやかさを持つた「強靱な県土」をつくりあげ、県民生活や地域社会、産業、伝統・文化などを守つて参ります。

一方、我が国では、高度成長期以降に集中的に整備されたインフラが今後一斉に老朽化することが見込まれており、維持管理・更新等を適正に行つていくことが課題となっております。治山林道施設については、交付金等を活用しながら、平成三十一年度までに「個別施設計画」を策定する予定でございます。このため、長寿命化対策に向けた取り組みや技術的手法等、官民一体となつて検討していきます。

また、「地方創生」につきましては、本格展開の年でもあります。首都圏における新たな「情報発信」と「交流」の拠点として、東京都渋谷区に「とくしまブランドギャラリー」を県産材を活用しつつ、開設します。さらに、中山間地域から「地方創生」を実現するため、「新次元林業プロジェクト」を展開しており、十年後の県産材生産量をプロジェクト開始前の約四倍となる六十万立方メートルまで引き上げることを目標としており、

路網整備は目標達成のために欠かせない事業となっております。

これら林道、路網整備の推進はもとより、ICTを活用した「とくしま林道ナビ」を開発し、林道への多様化するニーズに素早く対応するため、通行止め情報や、周辺のビューポイントなどの情報を発信しております。昨年五月十五日には、開設一周年記念イベントとして、佐那河内村大川原高原で「カップラーメンミーティング」を開催したところ、県内外から二百三十人の方々にご参加いただきました。今後は、利用が拡大され、中山間地域に新たな「にぎわい」を興す地方創生の一つのツールとなることを期待しております。

このように、治山林道事業は、木材生産の基盤を支えるとともに、森林の整備や保全を通じて森林の持つ公益的機能の増進や地球温暖化対策、中山間地域の生活基盤の維持・向上、さらに地方創生など、多様な役割を担つており、本県の重要施策に密接に関わる事業でございます。今後とも、治山林道事業の更なる推進に当たりまして、皆様の一層のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

結びとなりますが、貴協会のますますの御発展と皆様の御健勝、御活躍を心から祈念して、新年のあいさつといたします。



## 「新年のご挨拶」



森林整備課  
林地保全担当

井川 恭一

新年明けましておめでとうございます。旧年中は、皆様方には大変お世話になりました。本年も昨年と同様に、よろしくお祈りします。

早いもので私も、四回目の年男（酉年）を迎えることとなり、もう、五十に手が届く歳となり、まだまだ若いと思っておりますが、年齢を重ねるにつれて、体力・脳力ともに衰えてきている感じがします。

私も、県庁に入庁して、治山七年、林道十八年（うち県庁二年）、県土整備部工務担当二年、今現在、県庁で林地保全二年と担当させて頂いてきました。これまでのほとんどが、森林土木事業に携わってきて、その中でも、林道担当を経験してきました。最初は、何に対しても、右も左もわからない日々で、先輩方の一つ一つ丁寧に教えて頂き、毎日必死に頑張っていたことを思い出します。

新人の頃の仕事といえば、図面の青焼き、図面折り、設計書のチェックでした。青焼き機械はアンモニアを使用し、焼き付けて図面を印刷する機械で、そのアンモニアの悪臭に耐えながら、丸一日、図面を焼いていました。今では、CADで図面を作成し、プリンターで図面をコピーし、紙折り機で図面を折るようになり、大変便利になりました。私にとっては、昔のアナログも良い思い出の一つとなっています。

最近では、台風による災害、また、東日本大震災発生以降、熊本、鳥取の大地震が発生し、毎年のように全国各地で甚大な被害が発生

生しており、自然災害の凄さを改めて思い知らされています。本県においても、南海トラフ大地震により被害を受け、被災者になりうることは間違いありません。森林整備事業に携わる一人として、過去の災害等で得た知識、経験をいかし対応していきたいと考えています。

最後になりましたが、皆様方におかれまして、健康に十分留意され、益々の飛躍をご祈念申し上げます。新年のご挨拶とさせていただきます。

## 「年頭のご挨拶」



徳島県農林水産部  
農林水産基盤整備局  
森林整備課

宮本 真二

新年、明けましておめでとうございます。徳島県治山林道協会の皆様方におかれましては、つつがなく新たな新年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃より治山林道事業に対しましてご協力とご理解をいただき厚くお礼申し上げます。

私は現在、治山事業に携わっておりますが、昨年は徳島県を襲う大きな豪雨災害などは、例年に比べて比較的少なかった印象があります。しかしながら、全国に目を向けてみますと、四月に起きた「熊本地震」をはじめ、八月に東北・北海道を襲った台風による豪雨災害など、自然災害の発生は時期や場所を選ばずことなく起きていました。

特に「熊本地震」については、私自身が熊本県の出身ということもあって非常に関心が高く、被害や避難状況などの動向をみていますと、直下型地震の怖さと避難生活の過酷さ

などを改めて知ることとなりました。一方で徳島県北部には、県を東西に走る日本最大級の活断層「中央構造線」があります。この中央構造線の動きについては、数百年動かないと言われていたようですが、熊本地震を引き起こした活断層の動きは、予測が明確ではなく地震が起こる確率も低い地域とされてきました。しかしながら、今回の熊本地震のことを考えると、中央構造線の地震もいつ起こっても不思議ではないような気がしています。

直下型地震に限らず徳島県が置かれている状況はさらに厳しく、プレート境界型の南海トラフ巨大地震は、今後三十年以内に七〇％の確率で起こるとされています。プレート境界型の地震は、揺れに加えて津波による浸水被害が発生しますので、熊本地震は内陸を中心とした被害でしたが、南海トラフ巨大地震は、内陸部と海岸部の広範囲に被害が広がることが考えられます。今さらながら地震に限らず自然災害は、いつでもどこでも起こり得ますので、今回の熊本地震を機に、皆様も今一度「災害への備え」を考えてみてはいかがでしょうか？

この熊本地震で私になったことは、「コミュニティ形成」の大変さと大切さでした。支援活動やボランティア活動などをより効率的に行うことと、そこで暮らす人々との繋がりや役割分担をより早く築き協力し合えるかは、避難生活を送るうえで重要なポイントとなるようです。

今、新しい年を迎えて思うことは、「これから人と人との繋がりを大切に、自分の立ち位置を確かめながら日々の生活を送っていければ」と、当たり前ながら考えています。

最後に、皆様におかれまして、今年一年が健康で実りある年となりますことをお祈り申し上げます。年頭のご挨拶とさせていただきます。

# 平成二十八年年度日本林道協会通常総会 治山・林道コンクール表彰式

去る十二月一日  
東京都内のホテル・ルポール麹町で平成二十八年度の日本林道協会の通常総会が開催されました。冒頭山口俊一会長から、公共事業の来年度当初予算要求が対前年比一二〇%として取り組んでいる。また、森林整備治山事業促進議員連盟として財務省への予算要望を進めている。来年度予算を巡る状況は厳しいが、「緑の国土強靱化対策」の強力な推進、また災害に対抗する事前防災の取り組みのため必要額を確保していきたいとの力強い決意の挨拶がありました。



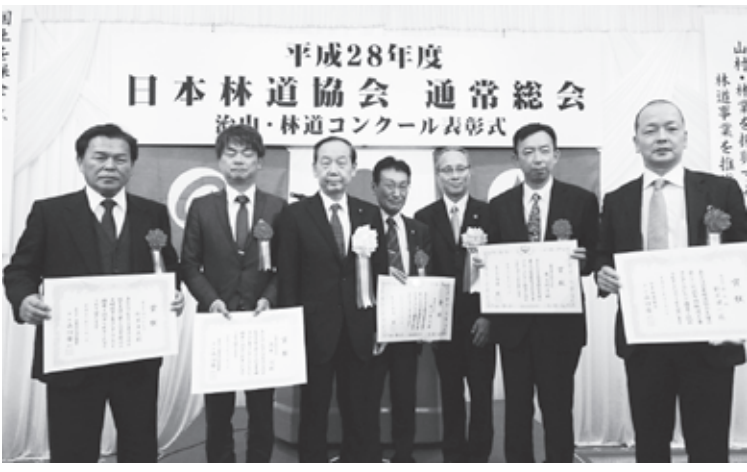
また、来賓の沖林野庁次長より「地方創生と林業成長化産業の実現に向けた経営基盤の根幹である森林土木事業の着実な推進を図っていく」との挨拶がありました。

続いて山口会長が議長に就任し議案第一号から議案第五号まで全会一致で原案どおり承認され、林道



予算の確保と施策の充実等五項目について取り組んで行くこととなりました。

恒例の「治山・林道コンクール表彰」が行われ、農林水産大臣表彰七名をはじめ合わせて一三八名の方々が賞を受賞されました。受賞をされた本県の五名の皆様方は次のとおりです。本当におめでとうございます。



**治山・林道コンクール表彰者**  
林野庁長官賞

- 第三十九回林道維持管理コンクール  
那賀町長 坂口博文  
下司林谷線

**林野庁長官賞**  
●第十七回民有林林道木材使用工事コンクール  
勝浦建設(株)  
林道開設事業 生実八重地線生実工区  
廣安稔子

**日本治山治水協会会長賞**  
●第三十二回民有林治山工事コンクール  
南建設(株)  
復旧治山事業 つるぎ町 木地屋 高木司

**●第十七回民有林治山木材使用コンクール**  
(株)ウッドピア  
保安林改良事業 内宇夫谷 松家貞夫

- 日本林道協会会長賞  
●第三十二回民有林林道工事コンクール  
(株)新居組  
林道開設事業 岩倉蟬谷線木沢工区  
新居健一

# 治山林道技術研修会開催

去る十一月七日徳島市の建設センターにおいて平成二十八年年度治山林道技術研修会を開催しました。徳島県のご協力のもと、予想を上回る約一二〇名の参加がありました。

この技術研修会は時代に即した治山林道工事に繋がる研究や情報、安全で事故のない現場管理、及び日々変貌する森林土木技術の対応と資質向上を目的とし開催されており、今回も当研修会は全国土木施工管理技士会連合会の継続教育学習制度(CPDS)の認定研修となっております。研修の講師及び概要については次のとおりです。



## ■研修Ⅰ 徳島県が進める防災減災の取り組みと今回の熊本地震について

徳島県農林水産部農林水産基盤整備局  
森林整備課 宮本主査兼係長

徳島県が進める山地防災ヘルパー強化の目的と山地災害の危険信号について。徳島県が実施してきた治山事業と過去の災害について。先だって発生した熊本地震から学び災害から身を守る留意点について説明が行われた。

## ■研修Ⅱ 労働安全衛生について

労働基準監督署 渡辺岳彦課長

公共工事品質確保法改正に伴い入札制度や現場管理が見直され、徳島県に於いても安全管理の取り組みや入札に関連する項目が改正されている。上記の変更点を踏まえて着眼点や直接的対応について、また現場技術員の現場事象・現場対処方法などの内容を盛り込み具体的に徳島県の実情に即した実体、運用、その対応について説明が行われた。

## ■研修Ⅲ 南海トラフ地震に備える 徳島県の地震動と津波から命を守る

高知大学防災推進センター  
岡村特任教授

前回の昭和南海地震から七十年が経過し次の巨大地震の発生が迫っている。今後発生するであろう巨大地震の解析と最大級の揺れや津波から命を守る防

## ■研修Ⅳ 土木技術者の原点と今後の対策セミナー

コンピュータシステム研究所 松野次長

土木技術者の原点と今後の対応について、公共工事の品質確保の促進方針の改正に伴う対応について、入札契約制度の改定の対応について、等の今後行うべき取り組みの説明が行われた。



# 平成二十八年年度発生 治山林道災害について

■平成二十八年年度においては、梅雨前線等に伴う豪雨や、台風の影響により重大な災害が発生しております。

●山地災害については、二市二町で、七箇所、面積一・〇三ha、被害額一億六千七百三十四万六千円

●治山施設災害については、一市一町で、二箇所、被害額四千四百八十四万八千円

●林道災害については、二市六町一村で、三十七箇所、延長二千二百三十三m、被害額七億一千五百三十三万円

●治山林道被害は、四十六箇所、被害額九億二千七百五十二万四千円となっております。

## ■被害時の状況は、次のとおりです。

●平成二十八年七月八日から九日にかけての梅雨災害

最大時間雨量 三十ミ (海陽町神野)  
連続雨量 百二十七ミ (海陽町大井)  
最大日雨量 百二十七ミ (海陽町大井)

●平成二十八年八月二十八日から二十九日にかけての八月豪雨災害

最大時間雨量 七十六ミ (美馬市古宮)  
連続雨量 百三十五ミ (美馬市古宮)  
最大日雨量 百三十五ミ (美馬市古宮)

●平成二十八年九月十九日から二十日にかけての台風十六号豪雨災害

最大時間雨量 百二十三ミ (徳島市丈六)  
連続雨量 三百四十四ミ (佐那河内村宮前)  
最大日雨量 四百四十二ミ (海陽町久尾)

## ■治山災害の査定結果 ○治山災害の状況

山地災害						災害関連事業申請				査定		備考
市町村名	災害名	地区数 路線数	箇所数	面積 (ha) 延長 (m)	被害額	地区数 路線数	箇所数	面積 (ha) 延長 (m)	予 定 申請額	査定結果	査定率	
美馬市	8月豪雨	1	1	0.20 ha	10,000							葛生
小 計	1市	1	1	0.20 ha	10,000							
吉野川市	台風 16号災	1	1	0.08 ha	20,000							小竹
那賀町		2	2	0.25 ha	35,000							立石谷・棚ヶ谷
海陽町		3	3	0.50 ha	102,346	1	1	0.05 ha	67,346	65,320	97.0%	三筒、鹿ヶ谷、大木屋 うち、三筒地区を災害関 連緊急治山事業で対応
小 計	1市2町	6	6	0.83 ha	157,346	1	1	0.05 ha	67,346	65,320		
合 計	2市2町	7	7	1.03 ha	167,346	1	1	0.05 ha	67,346	65,320		

単位：千円

治山施設災害						治山施設災害申請				査定		備考
市町村名	災害名	地区数 路線数	箇所数	延長 (m) 基数	被害額	地区数 路線数	箇所数	延長 (m) 基数	予 定 申請額	査定結果	査定率	
三好市	台風	1	1	77.6m	39,848	1	1	77.6m	39,848	39,583	99.3%	日ノ丸
海陽町	16号災	1	1	1.0基	5,000							大木屋
合 計	1市1町	2	2		44,848	1	1		39,848	39,583		

単位：千円

## ■林道災害の査定結果 ○平成二十八年年度発生「林道施設災害復旧事業」について

管轄	市町村	災害区分	被害報告				査定結果				査定率 (②/①)
			路線	箇所	延長	事業費	延長	申請事業費 ①	延長	査定事業費 ②	
東部農林 水産局	神山町	台風16号	3	7	1,280	148,000	1,081	107,662	198	99,185	92.1%
	上勝町	台風16号	1	1	50	25,000	49	21,440	49	21,440	100.0%
	勝浦町	台風16号	1	2	26	18,000	23	6,101	23	6,069	99.5%
	佐那河内村	台風16号	1	1	0	0	26	1,770	26	1,770	100.0%
	吉野川市	台風16号	1	1	10	2,000	12	3,101	12	3,101	100.0%
	小 計		7	12	1,366	193,000	1,191	140,074	308	131,565	93.9%
南部総合 県民局	海陽町	梅雨災害	4	7	106	30,330	106	30,330	106	29,510	97.3%
		台風16号	1	2	80	25,000	61	23,913	61	23,913	100.0%
	那賀町	台風16号	11	11	314	88,500	319	92,745	319	92,087	99.3%
	小 計		16	20	500	143,830	486	146,988	486	145,510	99.0%
西部総合 県民局	つるぎ町	地すべり災	1	1	260	200,000	254	228,017	254	220,998	96.9%
	三好市	地すべり災	1	1	30	150,000	113	178,337	113	175,586	98.5%
		台風16号	2	3	77	28,500	86	28,138	86	28,138	100.0%
	小 計		4	5	367	378,500	453	434,492	453	424,722	97.8%
合 計		27	37	2,233	715,330	2,130	721,554	1,247	701,797	97.3%	
再 掲		7月8日から9日にかけての梅雨災害	4	7	106	30,330	106	30,330	106	29,510	97.3%
		台風16号	21	28	1,837	335,000	1,657	284,870	774	275,703	96.8%
		地すべり災	2	2	290	350,000	367	406,354	367	396,584	97.6%
	合 計		27	37	2,233	715,330	2,130	721,554	1,247	701,797	97.3%

単位：千円

## ■今後の対応等

林野庁からの事業決定通知後、順次、治山林道災害事業の早期復旧に向け、早急な発注に努めます。

## 平成28年度 全国森林土木写真コンクール

優秀賞  
受賞!!

垣内 加奈さん



撮影者 垣内加奈

全国森林土木建設業協会主催の森林土木写真コンクールにおいて当協会から推薦した垣内加奈さん（徳島市）の作品が優秀賞を受賞されました。本当におめでとうございます。

全森建コンクールの趣旨は、森林土木に各種事業が、森林・林業を基盤から支えようと共に、国民の生命財産を守っているという極めて重要な事業であることを広く国民各層に浸透させ、理解を深めるためのポスターとなる原画を募集することです。

応募作品内容は

- ・工事現場で精力的に働く関係者の姿
- ・工事を円滑に進めるため地域住民との話し合い風景
- ・次代を担う子供たちの笑顔と森林土木工事等です。

今回、平成二十八年度全国森林土木写真コンクールでは、全国から代表の七〇点の応募があり、最優秀賞一点、優秀賞五点が選ばれました。

## 平成二十八年度 山地災害防止標語コンクール

優秀賞

「何の音?! いつもとちがう  
山のこえ」

鳥潟 一太さん  
(徳島県海部郡海陽町 穴喰小学校六年)

鳥潟 一太さん

奨励賞

「山の木が命たすける  
宝もの」

松本 梨里菜さん  
(徳島県海部郡美波町 日和佐小学校六年)

松本 梨里菜さん



日本治山治水協会主催の山地災害防止標語及び写真コンクールにおいて、標語部門で全国優秀賞 五点中の一点として、徳島県から鳥潟 一太さん（徳島県海部郡海陽町 穴喰小学校六年）が受賞されました。また、奨励賞 五点中の一点として、松本 梨里菜さん（徳島県海部郡美波町 日和佐小学校六年）が受賞されました。

このコンクールでは山地災害に対する国民の理解と関心を深めるため、都道府県及び市町村が行う「山地災害防止キャンペーン」の関連行事として、標語及び写真の作品を募集してきました。

標語のテーマは「山地災害の防止、森林や治山事業の効果、防災意識の高揚」などを広く国民に呼びかけるものであります。写真は災害を守る施設、防災パトロール、山でくらす人々と災害に関連すること等がテーマとなっています。

近年、局地的に甚大な被害をもたらす豪雨災害が頻繁に発生し、国民県民の安全・安心に対する関心が高まっております。このため脆弱な地形環境の徳島県にとって災害を今一度考える機会になればと関係者の皆様方に参加をお願いしました。

標語コンクールの全国応募総数は二四〇八点、写真コンクールは、一三六六点あり、それぞれ最優秀賞一点、優秀賞五点、奨励賞五点が選ばれました。

その結果今回多くの作品の中から標語部門で二人の方が優秀賞と奨励賞を受賞されました。鳥潟さん、松本さんおめでとうございます。また応募されました皆様ありがとうございました。今後も作品の応募よろしくお願いいたします。

## 備 忘 録

平成29年の新春 謹んでお喜び申し上げます。本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。

昨年は皆様方のご指導、ご協力により補正・当初公共事業予算獲得に少々ですが関わったのではないかと思います。「酉」年の由来は、果実や物事が熟す時であると言われております。今年こそ干支にちなんでこれらが美味しく食べられる果実となるよう頑張っております。新たな年が良い幕開けとなるよう気を引き締めて取り組んで参りたいと思っております。

## 本協会の主な動向 (11月～12月)

- 11月
- 7日(月) 平成28年度治山林道技術研修会
  - 21日(月) 平成28年度中四国森林土木建設業協議会(愛媛県)
  - 28日(月) 平成28年度全国森林土木建設業協会技術・労働委員会(東京都)
- 12月
- 1日(木) 平成28年度日本林道協会通常総会、治山・林道コンクール表彰式(東京都)
  - 26日(月) 平成29年度治山林道事業に関する知事要望